

全ての争議を解決し  
安全・安心の航空へ

# 航空連ニュース

航空労組連絡会  
大田区羽田 5-11-4 フェニックスビル  
Tel 03-3742-3251  
Fax 03-5737-7819  
No.987(35-8) 2020年11月16日

## 【CA 職場の問題 トップ 2 賃金 & 雇用】 ＜1 位 減便に伴う賃金の激減＞

コロナ禍による激便で、客室乗務員は著しく賃金が下がりました。その状況が半年以上続いており、このままでは生活維持が厳しいとの声が届いています。外航の客室乗務員には、基本給をベースとする休業補償では生活が出来ず、副業を二つ掛け持ちする実態もあり、内航、外航共に賃金の激減で悲鳴が上がっています。

日本航空キャビンクルーユニオン（CCU）は、この年末闘争期間中に「賃金 UP 計画」のWEB アンケートに取り組み、約 1000 名、職場の 5 人に 1 人からの参加があり 99%の人が月々の賃金の補填を求めています。

＜賃金についての職場の声＞

（CCU アンケートより抜粋）

コロナの感染リスクを負いながらも給料減。しかも社内では客室乗務員だけ極端に低く、生活ができないというのはあり得ず、むしろ危険手当が欲しいくらい。お客様に陽性者がいたら 2 週間自宅待機でフライトは取り上げられ、その分の乗務手当も貰えない。

破綻から客室乗務員のみ賃金が低いまま。コロナでさらに一般職のみさらに下げられた給料です。あまりの社内間不平等に酷いと思います。

家賃を支払うと手元に残る金額では食費もままならない



奨学金の支払いに苦慮している

シングルマザーなので、子供の教育費、家のローンもあり今の給料では生活ができません。65 時間保証を復活して欲しいです

貯金も取り崩し、底を尽きた

持病の治療のために病院に行きたかったけど、キャッシュがなく給料日まで待ちました。生活は惨めで、それでもプライドがあるので恥ずかしくて人にも言えません。



生活できなければどうしようもない。  
何か出来ないか検討する。理屈抜きで。日航赤坂社長 11月12日経営協議会

今後もこの減便状況が継続することから、客室乗務員の賃金に対する救済措置が求められています。

## <2 位雇用不安>

雇用について不安を感じる人も少なくありません。「10年前の破綻時のことが頭から離れず、精神的に不安定になりつつあります。」「10年前も解雇はしないと言って解雇した会社です。解雇問題の解決なくして、雇用不安はなくなりません。」「経営破綻時のように整理解雇されないかどうか心配。コロナ禍で年齢的にも(20代後半)転職はすぐにできないので雇用は守ってほしい。」(CCU アンケートより)

外航では、大韓航空での雇い止めや、外地への転勤が契約打ち切りかを選ばせるようなコロナ禍に乗じた雇用問題も発生しています。客室乗務員連絡会(客乗連)はアフターコロナを見据えて、航空産業を支える客室乗務員の雇用と生活は守りコスト削減リストラに対しても取り組みを行っていきます。

## 【コロナ関連・マスク着用の対応に苦慮する現場】

新型コロナウイルス感染拡大の中で、マスク着用を拒否される旅客への対応に苦慮しストレスに感じたというCAは少なくありません。アメリカは航空会社が運送約款に「マスク着用」を盛り込み、ヨーロッパは法律で「公共の場ではマスク着用を義務化」し、フィンエアーやルフトハンザなども義務化しています。

ワンワールド内(共同運送)での基準の違いはマスク着用義務の約款で搭乗されているお客様にも説明が付きません。



## 【疲労リスク管理 客室乗務職にも導入】

既に運航乗務員に導入されていた「疲労リスク管理」が、今年4月より客室乗務員に対しても導入されました。これに合わせて、客乗連は国交省航空局と客室実態などの情報交換を行いました。航空局からは、「客室乗務員の疲労要因、労働環境は運航乗務員のものと同じとは考えていない」「全く同じ方法では把握しきれないところもある」などの発言がありました。



また疲労に関する研究を進める研究者に客室乗務員の労働実態をお伝えする機会を持ちました。「徹夜や時差のある客室乗務員の勤務を、同じ4日勤務、2日お休みの日勤者と同等に比べるのには無理がある」などの感想が話されました。

コロナパンデミックの世界情勢の中でも航空の航空輸送としての役割について変わりはありません。客室乗務員の労働条件は安全に直結します。国民生活に不可欠な交通輸送手段として、これからも絶対安全を追求して行かなければなりません。客乗連は、復便に備え今後も積極的に提言を行って行きます。

